

学校名	宮崎県立高鍋農業高等学校
-----	--------------

平成 29 年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール 事業計画書

I 委託事業の内容

1. 研究開発課題名

新たな時代の変化に対応できる次世代農業経営者及び関連産業技術者の育成に関する研究
～ みやざきの発展を担う起業家スピリットとスキルを備えた人材育成を目指して ～

2. 研究の目的

本校では、現在の農業を取り巻く情勢の変化や課題から、国内有数の食糧供給基地という強みを生かし、農林水産業をはじめとする裾野の広い産業である「フードビジネス」を基幹産業とした新たな国際化に対応したみやざきの農業の推進が必要と考え、「ふるさとみやざきの発展を担う起業家スピリットとスキルを備えた人材育成」を目指す。

将来の予測が難しい社会の中でも、志高く未来を創り出していくために必要な資質・能力を子どもたち一人一人が確実に育むために『模擬株式会社「高農」の設置と経営実践』、『「高農ブランド」の農畜産物や加工品の品質向上と新商品の開発』、『関連上級学校や地域との連携や寮教育をとおしたキャリア教育の充実』に関する研究に取り組む。

本校の目指す人材像

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ○農業を核とした「フードビジネス」の振興と活力ある地域の創造に貢献できる人材 ○高度な農業技術や経営管理能力を持ったみやざきの農業をけん引できる人材 |
|---|

3. 実施期間

契約日から平成 30 年 3 月 15 日まで

4. 当該年度における実施計画

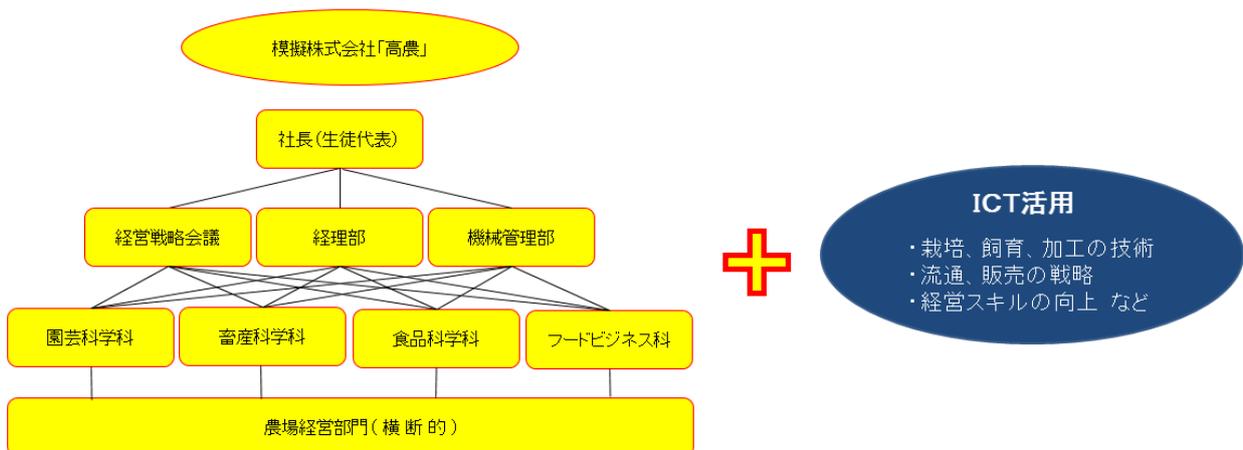
(1) 研究内容

①模擬株式会社「高農」の設置と経営実践

現在、4 学科（平成 28 年度現在）で生産販売する農産物や加工品の売上げは、約 8,000 万円である。それぞれの学科を 1 つの農業生産法人として捉え、4 つの農業生産法人が一体となった模擬株式会社「高農」を構築する。それぞれの専攻生の代表を経営幹部とし、定期的に経営戦略会議を開催し、生徒の豊かな発想を色濃く出した会社経営を展開させるとともに、ICT 活用により生産原価の把握から利益追求までのプロセスを細かく学習させ、生徒の会社経営参画意識と経営スキルを向上させる。また、高鍋農業高校販売所の活用や各種イベント等に積極的に参加させ、流通・販売学習の指導法の研究に取り組んでいく。

- (ア) 学習指導要領の改訂を見据えた農業専門科目の内容・指導法の研究
- (イ) 学校設定科目「フードビジネス」の内容・指導法の研究
- (ウ) マーケティング分野の充実と指導法の研究
- (エ) G A P 認証による安全・安心な農畜産物の生産法の研究
- (オ) I C Tを活用したスマート農業の導入実証やほ場管理システムに関する研究

研究目標	生徒の会社経営参画意識の醸成と経営スキルの向上
<ul style="list-style-type: none"> ○各学科における農場運営と経営のあり方に関する課題の抽出 ○模擬株式会社「高農」の構築とフードビジネスに対応した具体的な農場経営の検討 ○農場経営実践を核とした座学と実験・実習の在り方に関する検討 ○生徒及び関係職員の先進農業生産法人等への視察研修 ○フードビジネスに対応した I C Tを活用した栽培管理と原価生産管理の検討 ○G A P（農業生産工程管理：Good Agricultural Practice）認証へ向けた指導法の研究 ○高鍋農業高校販売所を活用した流通学習の指導法の研究 	



② 「高農ブランド」の農畜産物や加工品の品質向上と新商品の開発

高農ブランドの生産物はいずれも人気があり、地域から高い評価を受けている。安全・安心で付加価値を高めたものづくりと新商品の開発を進め、生徒のスキルアップに繋げる。

本校で生産する加工品の一番人気は「トマトケチャップ」である。現在は、市販のトマトピューレを利用しているが、フードビジネス科で生産したトマトをピューレまで1次加工し、食品科学科で製品として商品化する。このように、各学科が連携した新商品の開発を行う。

地域資源である「みやだいず」を用いた宮崎大学農学部との商品の共同開発にも取り組む。

- (ア) 学習指導要領の改訂を見据えた農業専門科目の内容・指導法の研究
- (イ) 商品開発分野の充実と指導法の研究
- (ウ) 地域資源「みやだいず」を材料に用いた宮崎大学農学部との共同商品開発
- (エ) 地域企業と連携した環境に優しい栽培法に関する研究

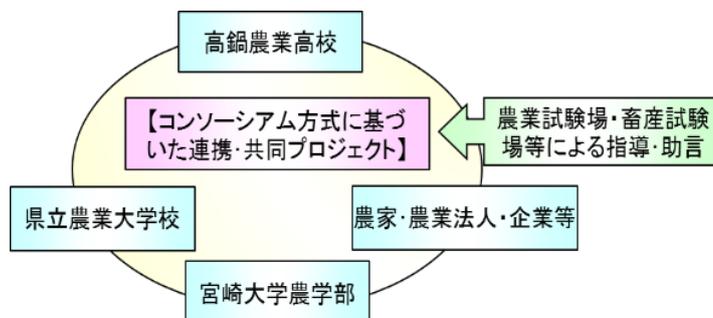
研究目標	地域や県民から高い評価を受けている高農ブランドの農畜産物及び加工品の更なるグレードアップを図る。また、宮崎大学農学部や南九州大学との連携による商品開発や高農ならではの各学科が連携した新商品の開発。
<ul style="list-style-type: none"> ○従来の「高農ブランド」製品の品質向上 ○商品開発分野の充実と指導法の研究→学校生産物を利用した加工品試作 ○地域資源「みやだいず」を原料とした宮崎大学農学部との共同研究による商品開発 ○地元企業との連携した環境に優しい栽培法の研究 	

③ 関連上級学校や地域との連携や寮教育をととしたキャリア教育の充実

既に連携協定を締結している県立農業大学校や宮崎大学農学部及び南九州大学と取り組んでいる内容の深化と発展を図っていく。フードビジネス科2年生では、高鍋町内の12事業所で年間26日間のインターンシップを実施しているが、これを他学科2年生にも適応し、農業法人等でのデュアルシステムへと発展させ、県内農業法人等への就職者数を増加させる。

- (ア) コンソーシアム方式によるプロジェクト活動の研究
- (イ) 宮崎県立農業大学校や宮崎大学農学部及び南九州大学との連携事業推進に向けた研究
- (ウ) デュアルシステムに関する研究と実施
- (エ) 公的資格取得の推進
- (オ) キャリア教育を視点とした寄宿舍「明倫寮」の教育内容の充実

研究目標	関連上級学校（県立農業大学校、宮崎大学農学部、南九州大学）と連携したキャリア教育の充実、全学科を対象としたデュアルシステムの実施、キャリア教育を視点とした寄宿舍「明倫寮」の教育内容の充実
<ul style="list-style-type: none"> ○県立農業大学校とのコンソーシアム方式によるプロジェクト学習の実施 ○宮崎大学農学部との共同研究等の開始 ○フードビジネス科2年生のデュアルシステムの開始 ○全学科の「デュアルシステム」実施に向けた検討 ○寮教育の意義や効果の洗い出し ○寮教育の指導体制の見直し、寮役員組織と自治活動の在り方について検討 	



コンソーシアム方式による連携・共同プロジェクト

(2) 効果測定について

生徒、教師、保護者及び運営指導員からのアンケート調査（自己評価及び他者評価）や、記録簿・レポート等の作品及び資格取得状況などにより客観的に評価する。

定性目標及び定量目標

〈 定性目標及び定量目標の効果測定の方法 〉

実施した研究について、4段階で評価し2.8以上を目指す。

<p>【評価者】</p> <p>① 研究に参加した生徒による内部評価</p> <p>② 研究に参加した生徒保護者による外部評価</p> <p>③ 研究に携わった教師による内部評価</p>
--

<p>【評価基準】</p> <p>4 とても満足</p> <p>3 満足</p> <p>2 あまり満足できない</p> <p>1 満足できない</p>
--

研究開発内容	定性目標の評価項目	定量目標の評価項目	効果測定
① 模擬株式会社「高農」の設置と経営実践			
<p>農業及び農業関連産業の起業家育成に関する研究</p> <p>○農場経営の在り方に関する課題の抽出と改善策の策定</p> <p>○模擬株式会社「高農」の構築とフードビジネスに対応した農場経営</p> <p>○フードビジネスに対応したICTを活用した栽培管理と原価生産管理</p> <p>○先進農業生産法人等への生徒や教師の派遣研修</p> <p>○フードビジネスに対応したICTを活用した栽培管理と原価生産管理</p> <p>○GAP認証取得へ向けた指導法の研究</p> <p>○高鍋農業高校販売所を活用した流通学習の指導法の研究</p>	<p>●農場経営の課題と改善策は策定できたか</p> <p>●模擬株式会社「高農」の社是及び経営理念の構築</p> <p>●ICTを活用した栽培管理と原価生産管理の導入</p> <p>●派遣研修により、教師や生徒はどう変わったか</p> <p>●ICTを活用した栽培管理と原価生産管理が実施できているか</p> <p>●GAP認証取得に向けた取組体制はできているか</p> <p>●販売所の運営</p> <p>●消費者ニーズの理解</p>	<p>●担当者の打合せ 学期1回以上実施</p> <p>●担当者の打合せ 学期2回以上実施</p> <p>●担当者の打合せ 学期2回以上実施</p> <p>●生徒の理解度・満足度4段階評価2.8以上</p> <p>●ICT活用に対する生徒理解度・満足度</p> <p>●GAP認証に対する生徒の理解度</p> <p>●販売所の稼働率 月2回以上</p>	<p>・アンケート調査</p> <p>・生徒の満足度</p> <p>・観察法（行動、発言、実技）</p> <p>・作品法（ノート、レポート、プリント、成果物）</p> <p>・来校者の満足度</p>

研究開発内容	定性目標の評価項目	定量目標の評価項目	効果測定
② 「高農ブランド」の農畜産物や加工品の品質向上と新商品の開発			
<p>流通・販売</p> <p>○従来の「高農ブランド」製品の品質向上</p> <p>○商業科目「商品開発」の実践と指導法の研究→学校生産物を</p>	<p>●本校農畜産物の品質が向上しているか</p> <p>●新商品の試作ができたか</p>	<p>●担当者の打合せ 学期2回以上実施</p> <p>●担当者の打合せ 学期2回以上実施</p>	<p>・アンケート調査</p> <p>・生徒の満足度</p>

及び経営スキルの習得と向上	<p>利用した加工品試作</p> <p>○地域資源「みやだいず」を原料とした宮崎大学との共同研究による商品開発</p> <p>○地元企業との連携した環境に優しい栽培法の研究</p>	<p>●新商品の開発、販売戦略の構築について、教材化できたか</p> <p>●宮崎大学との共同研究を進めることができたか</p> <p>●地元企業と連携したプロジェクト学習に取り組んでいるか</p> <p>●地域農業の理解</p>	<p>●生徒の理解度・満足度4段階評価 2.8以上</p> <p>●担当者の打合せ 学期2回以上実施</p> <p>●生徒の理解度・満足度4段階評価 2.8以上</p>	<p>・観察法（行動、発言、実技）</p> <p>・作品法（ノート、レポート、プリント、成果物）</p> <p>・連携先からの評価</p>
---------------	--	---	--	---

研究開発内容	定性目標の評価項目	定量目標の評価項目	効果測定	
③ 関連上級学校や地域との連携や寮教育をとおしたキャリア教育の充実				
キャリア教育の充実と発展・寄宿舎「明倫寮」で高める人間力	<p>○県立農業大学校とのコンソーシアム方式によるプロジェクト学習の実施</p> <p>○宮崎大学・南九州大学との共同研究等の開始</p> <p>○フードビジネス科2年生のデュアルシステムの開始</p> <p>○全学科の「デュアルシステム」実施に向けた検討</p> <p>○公的資格取得の推進</p> <p>○寮教育の意義や効果の洗い出し</p> <p>○寮教育の指導体制の見直し、寮役員組織と自治活動の在り方について検討</p> <p>○寮教育におけるキャリア教育の在り方に向けた検討</p>	<p>●農大と連携したコンソーシアム型の研究が実施できているか</p> <p>●専門性を高めることができたか</p> <p>●宮崎大学や南九州大学との共同研究が実施できているか</p> <p>●勤労観・職業観の育成「デュアルシステム」15日以上実施</p> <p>●「デュアルシステム」の実施に向けた諸課題が解決できたか</p> <p>●専門的な知識と技術の習得</p> <p>●寮教育改革に向けた諸課題が整理できたか</p> <p>●寮教育を生かしたキャリア教育の実施に向けた検討ができたか</p>	<p>●担当者の打合せ 学期2回以上実施</p> <p>●生徒の理解度・満足度4段階評価 2.8以上</p> <p>●担当者の打合せ 学期2回以上実施</p> <p>●生徒の理解度・満足度4段階評価 2.8以上</p> <p>●受入企業からの評価</p> <p>●担当者の打合せ 学期2回以上実施</p> <p>●日本農業技術検定 3級合格率85%以上</p> <p>●担当者の打合せ 学期2回以上実施</p> <p>●担当者の打合せ 学期2回以上実施</p>	<p>・アンケート調査</p> <p>・生徒の満足度</p> <p>・観察法（行動、発言、実技）</p> <p>・作品法（ノート、レポート、プリント、成果物）</p> <p>・日本農業技術検定 3級合格率</p> <p>・連携先からの評価</p>

5. 実施体制

(1) 研究担当者

氏名	職名	役割分担・担当教科
長友 一弘	主幹教諭	◎研究開発主任（事業統括）・教科「農業」（園芸）・舎監長
立野 秀行	主幹教諭	◎研究開発副主任（事業統括）・教科「農業」（園芸）・農場長
村山 範朗	教諭	○模擬株式会社「高農」構築部主任・教科「農業」・フードビジネス科主任
石戸 秀一	教諭	模擬株式会社「高農」構築部副主任・教科「農業」・園芸科学科主任
松浦 豊	教諭	模擬株式会社「高農」構築部副主任・教科「農業」（園芸）
古田 栄三	教諭	模擬株式会社「高農」構築部・教科「農業」（園芸）
柳田 朋信	教諭	模擬株式会社「高農」構築部・数学科代表・生徒指導主事
黒木 聖雄	教諭	模擬株式会社「高農」構築部・教科「農業」（畜産）・専任舎監
平部 和弥	教諭	模擬株式会社「高農」構築部・教科「農業」（フードビジネス）
恒松 数磨	教諭	模擬株式会社「高農」構築部・教科「農業」（畜産）
戸高 彰謙	実習教師	模擬株式会社「高農」構築部・教科「農業」（園芸）
日吉 俊介	実習教師	模擬株式会社「高農」構築部・教科「農業」（食品）
福留 賢次	実習教師	模擬株式会社「高農」構築部・教科「農業」（畜産）
瀧川 幸司	実習教師	模擬株式会社「高農」構築部・教科「農業」（フードビジネス）
久木元秋仁	講師	模擬株式会社「高農」構築部・教科「地歴公民」
川添 亮平	講師	模擬株式会社「高農」構築部・教科「農業」（フードビジネス）
吉松 篤志	事務主査	模擬株式会社「高農」構築部副主任・事務主任
南 仁美	事務主査	模擬株式会社「高農」構築部・事務部・農場特別会計担当
川崎 千里	主事	模擬株式会社「高農」構築部・事務部
弓削順一郎	教諭	○高農ブランド新商品開発部主任・教科「農業」・食品科学科主任
根井 貴香	教諭	高農ブランド新商品開発部・教科「家庭」・新商品開発担当
長澤 良彦	教諭	高農ブランド新商品開発部・教科「商業」・商業科代表
眞茅 喜成	教諭	高農ブランド新商品開発部・教科「農業」（食品）
藤久保琢也	教諭	高農ブランド新商品開発部・教科「農業」（畜産）
長友 周子	教諭	高農ブランド新商品開発部・教科「農業」（園芸）
平辻 加奈	教諭	高農ブランド新商品開発部・教科「農業」（フードビジネス）
高橋 靖子	教諭	高農ブランド新商品開発部・教科「家庭」
甲斐みちる	教諭	高農ブランド新商品開発部・教科「家庭」
黒木 弘美	教諭	高農ブランド新商品開発部・教科「英語」
前田 祐輝	講師	高農ブランド新商品開発部・教科「農業」（食品）
竹松 信明	実習教師	高農ブランド新商品開発部・教科「農業」（園芸）
廻 優一	実習教師	高農ブランド新商品開発部・教科「農業」（畜産）
門川 悟	実習教師	高農ブランド新商品開発部・教科「農業」（食品）
永田 祥	実習教師	高農ブランド新商品開発部・教科「農業」（畜産）
川田原正樹	実習教師	高農ブランド新商品開発部・教科「農業」（フードビジネス）
平川 孝一	教諭	○学習プログラム開発部主任・教科「農業」（食品科学）・教務主任

高山ひとみ	教諭	学習プログラム開発部副主任・教科「英語」・英語科代表
黒木 修一	教諭	学習プログラム開発部・教科「農業」(畜産)・畜産科学科主任
佐藤登士夫	教諭	学習プログラム開発部・教科「農業」(畜産)
萬條 浩二	実習教師	学習プログラム開発部・教科「農業」(フードビジネス)
成合理恵子	教諭	学習プログラム開発部・教科「数学」
荒武みちよ	教諭	学習プログラム開発部・教科「国語」・国語科代表
市原 洋平	教諭	学習プログラム開発部・教科「地歴公民」
熊田 修治	教諭	学習プログラム開発部・教科「生物」・理科代表
秋吉 知洋	教諭	学習プログラム開発部・教科「保健体育」・保健体育科代表
古川ゆかり	養護助教諭	学習プログラム開発部
清本 杏奈	養護助教諭	学習プログラム開発部
福光 幸	教諭	○キャリア教育推進部主任・地歴公民科代表・進路指導主事
児島 雄二	教諭	キャリア教育推進部副主任・教科「農業」(食品)
和田 隆	教諭	キャリア教育推進部・教科「国語」
岡田 伸幸	教諭	キャリア教育推進部・教科「数学」
石崎 寛教	教諭	キャリア教育推進部・教科「保健体育」
福重 美帆	教諭	キャリア教育推進部・教科「農業」(畜産)
吉行 理瑛	講師	キャリア教育推進部・教科「保健体育」
江藤 志朗	実習教師	キャリア教育推進部・教科「農業」(フードビジネス)
永井 和康	実習教師	キャリア教育推進部・教科「農業」(園芸)
井上 逸朗	実習教師	キャリア教育推進部・教科「農業」(園芸)
戸高 太尊	実習教師	キャリア教育推進部・教科「農業」(畜産)
今村絵里子	主任主事	キャリア教育推進部・事務部
小東 一生	就職支援 コーディネーター	キャリア教育推進部・進路指導部
椿本 直基	教諭	○キャリア教育推進部寮教育担当主任・専任舎監・副舎監長
高山 有三	教諭	キャリア教育推進部寮教育担当・専任舎監
瀬海健一郎	教諭	キャリア教育推進部寮教育担当・専任舎監
古西 純弥	栄養教諭	キャリア教育推進部寮教育担当
川村 裕子	寄宿舎指導員	キャリア教育推進部寮教育担当・寄宿舎指導員
岡本 明美	寄宿舎指導員	キャリア教育推進部寮教育担当・寄宿舎指導員
御手洗辰秀	主任主事	キャリア教育推進部寮教育担当・事務部

(2) 研究推進委員会

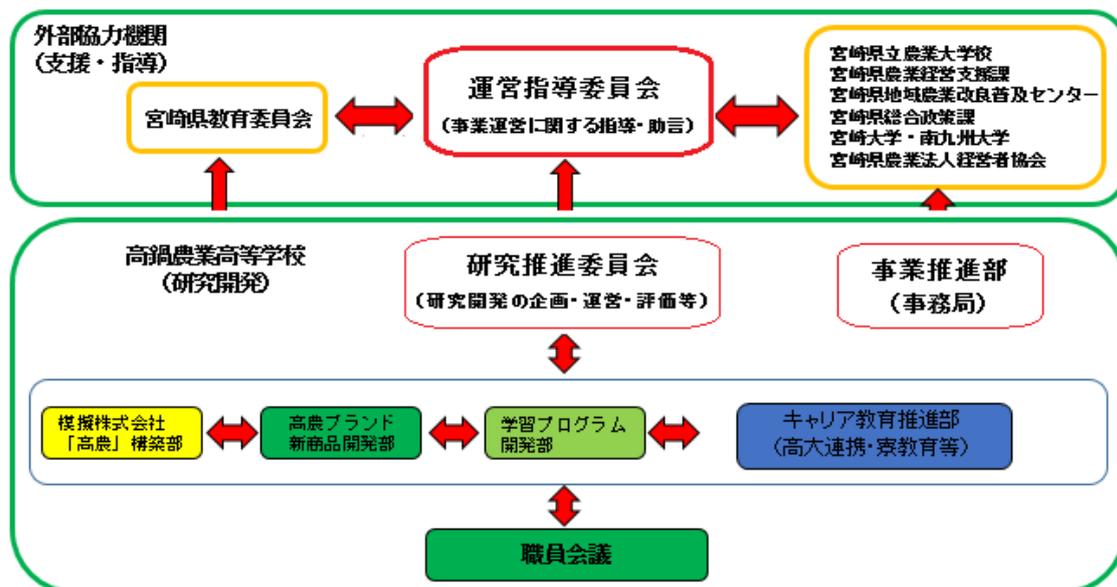
氏名	所属・職名	役割分担・専門分野等
山下 勉	宮崎県教育庁学校政策課 産業教育担当・主幹	指導助言・教科「農業」
内田 博之	宮崎県教育庁学校政策課 産業教育担当・指導主事	指導助言・教科「農業」
萩原 浩二	高鍋農業高等学校・校長	相談役・教科「農業」

岩切 哲郎	高鍋農業高等学校・教頭	相談役・教科「農業」
佐々木真司	高鍋農業高等学校・事務長	相談役・事務
長友 一弘	高鍋農業高等学校・主幹教諭	◎研究開発主任（事業統括）・舎監長
立野 秀行	高鍋農業高等学校・主幹教諭	研究開発副主任（事業統括）・農場長
村山 範朗	高鍋農業高等学校・教諭	○模擬株式会社「高農」構築部主任
石戸 秀一	高鍋農業高等学校・教諭	○模擬株式会社「高農」構築部副主任
弓削順一郎	高鍋農業高等学校・教諭	○高農ブランド新商品開発部主任
平川 孝一	高鍋農業高等学校・教諭	○学習プログラム開発部主任
黒木 修一	高鍋農業高等学校・教諭	○学習プログラム開発部・教科「農業」(畜産)・畜産科学科主任
福光 幸	高鍋農業高等学校・教諭	○キャリア教育推進部主任
椿本 直基	高鍋農業高等学校・教諭	○キャリア教育推進部寮教育担当主任

(2) 運営指導委員会

氏名	所属・職名	役割分担・専門分野等
中瀬 昌之	南九州大学健康栄養学部教授	委員長（座長）
巢立 幸彦	児湯農林振興局次長（兼） 児湯農業改良普及センター所長	指導助言・農業政策
渡辺 忠士	高鍋町産業振興課長	指導助言・産業振興
槐島 芳徳	宮崎大学農学部准教授	指導助言・連携事業等
奥村 昌美	宮崎県立農業大学校副校長	指導助言・連携事業等
木村 尚人	元PTA会長・大岩建設会社専務	指導助言・会社経営
池田 誠	株式会社くしまアオイファーム社長	指導助言・法人経営・農産物輸出
藤蔭 志保	宮崎県産業振興機構コーディネーター	指導助言・新商品開発・連携事業等
吉田 郷志	宮崎県教育庁学校政策課長	指導助言・教育行政

(3) 校内における体制図



6. 研究内容別実施時期

活動時期	委員会等	内容等
4月	□職員会議 ■研究担当者会 ○第1回研究推進委員会	・本研究開発の概要について、全職員及び生徒への周知徹底 ・研究担当者ごとに研究内容の確認と意見交換 ・研究開発主任を中心とした研究推進委員会の開催
5月	○第2回研究推進委員会	・研究開発の内容と具体的計画のまとめ
6月	○第3回研究推進委員会	・第1回運営指導委員会への報告書作成
7月	★第1回運営指導委員会 ○第4回研究推進委員会 ■研究担当者会 □職員会議	・運営指導委員からの指導 ・運営指導委員会からの意見の反映と対応 ・研究担当者ごとに研究開発の進捗状況の確認 ・研究開発の進捗状況についての確認
8月	○第5回研究推進委員会	・2学期に向けた取組内容の計画
9月	■研究担当者会 ○第6回研究推進委員会	・研究担当者ごとの2学期の研究計画の確認 ・研究開発の進捗状況について意見交換
10月	○第7回研究推進委員会 ★第2回運営指導委員会	・第2回運営指導委員会への報告書作成 ・運営指導委員会からの指導
11月	○第8回研究推進委員会	・運営指導委員会からの意見の反映と対応
12月	○第9回研究推進委員会 ■研究担当者会 □職員会議	・研究開発の進捗状況について意見交換 ・研究担当者ごとに研究開発の進捗状況の確認 ・研究開発の進捗状況についての確認
1月	○第10回研究推進委員会 ◎研究成果報告書作成	・研究成果報告書作成準備
2月	○第11回研究推進委員会 ★第3回運営指導委員会 ◎成果発表会の公開	・研究成果報告書の内容確認 ・運営指導委員会からの指導
3月	○第12回研究推進委員会 ◎文部科学省へ事業完了報告書等を提出	・報告書等の内容確認
4～3月 (通年)	・本研究開発に取り組むことが生徒の内発的学習意欲を高め、本校が目指す人材を育成していくことができる	①模擬株式会社「高農」の設置と経営実践 ②「高農ブランド」の農畜産物や加工品の品質向上と新商品の開発 ③関連上級学校や地域との連携や寮教育をとおしたキャリア教育の充実

7. この事業に関連して補助金等を受けた実績

補助金等の名称	交付者	交付額	交付年度	業務項目
実績なし				

8. 知的財産権の帰属

※ いずれかに○を付すこと。なお、1. を選択する場合、契約締結時に所定様式の提出が必要となるので留意のこと。

() 1. 知的財産権は受託者に帰属することを希望する。

() 2. 知的財産権は全て文部科学省に譲渡する。

9. 再委託に関する事項

再委託業務の有無 有 ・ 無

※有の場合、別紙3に詳細を記載のこと。

II 委託事業経費

別紙1に記載

III 事業連絡窓口等

別紙2に記載